

## 第 50 回市民教育公開講座の話

9月30日に第50回市民教育公開講座が開催されました。テーマにはアドバンスケアプランニングが選ばれ、私が座長を務めました。今年度のACPに関連するイベントの締めくくりとなる催しでした。最初に川崎市立井田病院 腫瘍内科医の西智弘先生に「アドバンスケアプランニングを知っていますか？」と題してご講演頂きました。ここでは、アドバンスケアプランニング(ACP)という概念が生まれた歴史的な経緯、ACPとは、人の「死」ではなく「生きること」に焦点を当てて話し合うプロセスであること、そして、自分が暮らす地域で自分らしく生きるための支えとして西先生が病院の外で行っている「暮らしの保健室」という活動についてもお話しいたしました。

また、これに引き続いて後半のパネルディスカッションの冒頭では藤野在宅緩和ケアクリニックの石橋了知先生が中心となって藤野町で行っている移動式の「保健室」活動についてご紹介いただきました。地域が違えば異なった取り組みができることの実例です。当院からは波多江医療相談室長から、急性期病院としての相模原協同病院におけるACPの取り組みについて話してもらいました。会場には200名を超えるお客様にご来場いただきましたが、皆さんとても熱心に聞いてくださっているのが壇上から見ていてよくわかりました。

ふと思ったのですが、ACPって、まるでカーリング競技に似ていませんか？あなたがティーマン(ゴール)に向けて投げたストーンを、みんなで「そだねー」と目標を共有しながら、そしてハラハラしつつも進路を修正して作業です。そのためのチーム作りをACPと呼ぶのだと思います。ですからあなたにとって「私のゴールはあの辺」という気持ちを誰かに話して共有することが出発点です。そのゴールは時々変わってもいい。なぜならそうしたいと思うあなたの気持ちの底辺に流れるものこそが、ACPのエッセンスだから。話す相手は家族や親戚、近所の人でもいいし、病院や介護にかかわる人たちでもいい。

そして今回とくに印象的だったのは、そのつながりの輪は必ずしも地縁血縁に囚われず、はじめは見も知らぬ、趣味や嗜好の合う人たちとの助け合いでもいいという西先生からの提案でした。自ら地域で活動し、SNSで毎日膨大なアウトプットを続ける人ならではの発想だと思いました。とても現代的かつ都会的な、そして現実的な考えだと思います。その中で、私たち医療者の役割は、患者さんとして付き合うその人の希望を実現するための「チームの一員になること」だと思いました。

その一方でACPにとって大事なものは、街場でふつうの人が、気がかりや心配事を気軽に相談できる場所を持てることなのではないかとも思います。コーヒーでも飲みながら、た

め息をつきながら…。慌ただしい病院ですべきこと、地域で一緒にやっていくこと、それぞれに役割はあるはずです。この度のイベントをとおして色々と考えました。ご参加くださった皆様、開催にご尽力いただいた皆様、ありがとうございました。

